

立命館宇治中学校・高等学校 2022 年度学校目標年度末報告シート

教育目標

- | |
|---|
| ① 国際化教育：高い外国語運用力と広い視野をもって異文化を理解できる能力の育成 |
| ② 情報化教育：情報機器を活用し、情報の受信・発信する能力の育成 |
| ③ 統合と卓越の教育：統合された知識と卓越した能力の育成 |
| ④ 貢献：高い倫理観をもち、社会・世界に貢献できる姿勢の育成 |

中期目標

- | |
|--|
| I. 豊かな教養と確かな学力を身に付け、主体的に学び・考える姿勢をもった生徒の育成 |
| II. 高い外国語運用力と広い視野をもって、異文化を理解できる能力をもった生徒の育成 |
| III. 高い倫理観と規範意識を備え、強い責任感で社会や世界に貢献できる生徒の育成 |
| IV. 向上心を持って自己研鑽に努め、協働のもと新しい学校づくりを目指す教職員集団の形成 |
| V. 地域・保護者との信頼関係に裏打ちされた学校ブランド力の確立と生徒募集力の向上 |
| VI. 魅力ある教育を支える体制や生徒が安心・快適に学ぶことができる学習環境の整備 |

I. 豊かな教養と確かな学力を身に付け、主体的に学び・考える姿勢をもった生徒の育成

中位目標		達成目標（当年度目標）	評価
1	自立した学習者の育成	(ア) 学力指標の向上とのための新しい観点別評価制度の構築	◎
		(イ) 生徒が能動的に参加する授業スタイルへの転換	○
		(ウ) 学習を支えるさまざまなリソースを活用した学習モデルの構築	○
2	特色ある教育プログラムの開発と普及	(ア) 学園内外との連携による価値観を揺さぶる教育	◎
		(イ) 中高6年間を通した「探究」プログラムの研鑽	◎
		(ウ) WVL 拠点校として構築したネットワークと経験の継承	◎
		(エ) 中学 IPC 教育の実践と高校 IB との連携	○
3	大学と連携した進路指導	(ア) 大学・学部との連携講座の充実	○
		(イ) 適切な進路指導の提供と支援	○
		(ウ) 海外大学への進路指導の対応強化	○

II. 高い外国語運用力と広い視野をもって、異文化を理解できる能力をもった生徒の育成

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	異文化体験の充実	(ア)	安全に留意し、質の高い留学派遣の実現	○
		(イ)	COVID-19 の制限のある中での留学生の受け入れ	◎
		(ウ)	学校内外での新たな異文化体験の機会の模索	○
2	帰国生支援	(ア)	帰国生へのきめ細やかなカウンセリングの実施	○
		(イ)	多様な背景を持つ帰国生への学習支援	◎
3	高い語学運用能力の養成	(ア)	高い語学力を持つ生徒の更なる引き上げ	○
		(イ)	高校3年生 TOEFL430 点の全員達成	△
		(ウ)	英語を活用した取り組みの開催	○
		(エ)	第二外国語の取り組みの推進	○

III. 高い倫理観と規範意識を備え、強い責任感で社会や世界に貢献できる生徒の育成

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	オープンマインド醸成と学校全体の一体感	(ア)	ダイバーシティ&インクルージョンの推進	○
		(イ)	挨拶、装い（制服着用）、清掃、持ち物管理など、周囲に配慮できる指導の推進	△
		(ウ)	学校への帰属意識と誇りを実感できる取り組みの実施	○
		(エ)	地球市民として SDGs を念頭に活動・生活できる指導の推進	◎
2	生徒が自ら主人公と考える学校運営	(ア)	生徒会・ホームルーム運営委員会など生徒の自主活動組織の活性化	◎
		(イ)	学園祭など、生徒が自発的に運営できる企画の推進	◎
3	生徒の自主活動・貢献活動	(ア)	生徒相互の奮闘を励まし合える関係づくり	◎
		(イ)	科学的で合理的な自主活動指導方法の研究	△
		(ウ)	学業・学校生活との両立できるバランスの取れたクラブ運営	○
4	人権意識の育成	(ア)	インターネット・SNS との関係性を学ぶ機会の提供	○
		(イ)	非行・いじめの早期発見と適切な対応	○
		(ウ)	平和や人権・環境を考える取り組み	◎

IV. 向上心を持って自己研鑽に努め、協働のもと新しい学校づくりを目指す教職員集団の形成

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	成長する教員集団	(ア)	研修（校内・校外）への参加	○
		(イ)	研究授業・公開授業・研究会の実施	◎
		(ウ)	課題を共有し互いを支え合うことができる教員集団（新任者指導相談員を配置する）	○
		(エ)	生徒指導力と保護者対応力の向上	○
2	働き方改革の段階的進行	(ア)	チームワークと仕事の合理化	○
		(イ)	休日・休養日の確保	△

V. 地域・保護者との信頼関係に裏打ちされた学校ブランド力の確立と生徒募集力の向上

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	地域連携	(ア)	土曜市民講座・スポーツ教室・小学生体験講座の実施	△
		(イ)	公共交通機関利用マナー向上	○
2	保護者連携	(ア)	丁寧な懇談会・説明会の実施による相互理解の促進	◎
		(イ)	保護者アンケート・生徒アンケートによる実態把握	○
3	同窓会	(ア)	卒業生のつながりを形として見せる	◎
		(イ)	卒業生の活躍の広報	○
4	生徒募集	(ア)	附属3校の共同歩調を強めた取り組みの展開	×
		(イ)	国内外の募集活動の工夫	○
		(ウ)	本校の魅力を伝えるパンフ・WEB 広報の強化	◎
5	リッツキッズ	(ア)	高い能力を持つ英語学習者の誘引	○
		(イ)	質の高い低年齢教育の実現	◎
		(ウ)	本校生徒募集への接続強化	○

VI. 魅力ある教育を支える体制や生徒が安心・快適に学ぶことができる学習環境の整備

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	生徒の心と体の健康を守る	(ア)	保健室を中心としたココロとカラダの健康に配慮した連携	◎
		(イ)	教育相談・HAT・カウンセリング体制づくり	○
2	学習環境の整備	(ア)	学習環境改善と機能の合理化	○
		(イ)	修繕・危険箇所の集約	△
3	リスクマネジメント力の強化	(ア)	避難訓練の実施と防災対策	○
		(イ)	生徒引率における安全確保	○
		(ウ)	迅速な事故対応	△
4	安心安全の生徒寮運営	(ア)	寮生の健康管理と安心と安全を第一にした寮運営	◎
		(イ)	学習する雰囲気づくり	△
		(ウ)	共同生活者としての連帯を生む自治組織づくり	○
		(エ)	新生徒寮の建設に向けた政策検討	○

達成状況

新型コロナ感染拡大3年目、今年度は高校2年IGコースで登校停止・オンライン授業を一度行ったが、2度の大きな感染拡大の波の中、学校教育活動を継続することができた。体育祭・体育大会、興風祭（学校文化祭）、学術祭などの行事について、来場制限はしたものの、おおむね予定通りの時期に平時と変わらぬ開催ができた。

高校では新学習指導要領が年次進行での開始となり、中学と高校1年で観点別評価制度をスタート。3つの観点での評価は適切に行われている。

海外への生徒派遣は、中高研修旅行は実施を断念したものの、GCPやCASIEなどの小グループの派遣を実施。高校IMコースの留学は出発時期の一部変更はあるものの3か国への派遣が可能となった。

改善策

臨時免許申請不備や異物混入事象を受け、危機管理体制や諸手続きの確認体制のさらなる強化が必須の課題である。

新型コロナ感染症の5類への移行を見据え、国内外での生徒の諸活動について、教員の働き方改革とすり合わせながら、あるべき姿を模索していくべきである。

また、2024年度には新指導要領完成年度を迎え、2025年度には新しい教育課程のスタートを見込んでいる。これまでの立命館宇治の教育を検証し、これからの「学び」のすがたをしっかりと見据えた改革を行っていききたい。

今年度は定期考査実施における不備など、生徒の成績評価に関わる事象が散見された。改めて全教職員で適切な実施ができるように取り組むたい。

学校関係者評価に関する事項

委員会 構成	亀田晃巖 氏（唯明寺住職）、山仲修矢 氏（教育後援会会長）、出雲健彦 氏（鳳凰会会長）、 上田亜季 氏（保護者会会長）、植村英紀 氏（保護者会副会長）、村瀬研次 氏（保護者会副会長）、 谷康平 氏（保護者会副会長）、横澤広久 氏（立命館一貫教育部部長）、森田真樹 氏（立命館大学大学院 教授）、 浮田恭子 氏（元副校長）、チャールズ・フォックス 氏（元校長）
開催日程 主な議題	第1回：2022年10月22日（土）13:00～16:00「入試説明会視察」「2022年度中間報告」 第2回：2023年3月28日（火）14:00～15:30「2022年度学校総括について」
評価・改善 事項	探究の学びや国際教育などの実績は大きく評価できる。しかし、それらの取り組みをもっとアピールしてもらいたい。 他校との差別化を、競争的な発信力をもって、国際的な文脈で立命館宇治の魅力を伝えていただきたい。 教科の学びを観点別に評価する仕組みができていますが、立命館宇治の魅力である探究の学びをどう評価するのがこれからの課題である。先進的な教育を評価できる仕組みを作ってもらいたい。 数値的な目標があまり見られないことは、学校関係者評価委員として評価しづらい点である。データを分析して現場と共有し、教職員が現在の立命館宇治の立ち位置を把握できるようにし、モチベーション向上に寄与してほしい。